

# 令和3年度 財政状況資料集

## 総括表（市町村）

都道府県名	福岡県		市町村類型	V-2	指定団体等の指定状況		区分		令和3年度(千円)		令和2年度(千円)		区分		令和3年度(千円・%)		令和2年度(千円・%)			
					財政健全化等	×	歳入総額	11,864,801	13,841,371	実質収支比率	6.0	7.1								
市町村名	須恵町		地方交付税種地	2-5	財源超過	×	歳出総額	11,480,015	13,397,661	経常収支比率	86.2	92.5								
					首都	×	歳入歳出差引	384,786	443,710	(※1)	(92.1)	(97.3)								
					近畿	×	翌年度に繰越すべき財源	2,686	27,403	標準財政規模	6,364,765	5,878,925								
					中部	×	実質収支	382,100	416,307	財政力指数	0.62	0.63								
人口	令和2年国調(人)		28,628		産業構造(※5)	過疎	×	単年度収支	-34,207	7,288	公債費負担比率	7.2	7.9							
	平成27年国調(人)		27,263			山振	×	積立金	607,526	94,949	健全化判断比率									
	増減率(%)		5.0			低開発	×	繰上償還金	0	0	実質赤字比率	-	-							
住民基本台帳人口(※7)	令和04.01.01(人)		29,045		第1次	指数表選定	○	積立金取崩し額	1,000	100,000	連結実質赤字比率	-	-							
	うち日本人(人)		28,753			98	125	実質単年度収支	572,319	2,237	実質公債費比率	7.0	7.2							
	令和03.01.01(人)		28,919		第2次			基準財政収入額	3,029,418	3,045,612	資金不足比率(※4)									
	うち日本人(人)		28,613			3,089	3,178	基準財政需要額	5,152,102	4,797,113										
	増減率(%)		0.4		25.1	25.8	標準税収入額等	3,811,024	3,839,007											
	うち日本人(%)		0.5		9,098	8,996	経常経費充当一般財源等	5,713,214	5,532,523											
面積(km <sup>2</sup> )		16.31		74.1	73.1	歳入一般財源等	8,258,474	7,712,376												
人口密度(人/km <sup>2</sup> )		1,755																		
世帯数(世帯)		10,942																		
職員の状況																				
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	一般職員等(※6)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高	7,381,919	7,300,570									
	市区町村長	1	8,320		一般職員	129	377,583	2,927	うち公的資金	6,320,959	6,353,378									
	副市区町村長	1	6,730		うち消防職員	-	-	-	地方債現在高(臨時財政対策債除き)	3,128,154	3,136,156									
	教育長	1	6,260		うち技能労務職員	-	-	-	債務負担行為額(支出予定額)	682,029	702,458									
	議会議長	1	3,460		教育公務員	8	24,577	3,072	収益事業収入	-	-									
	議会副議長	1	2,830		臨時職員	-	-	-	土地開発基金現在高	-	-									
	議会議員	12	2,640		合計	137	402,160	2,935	財政調整基金	3,146,022	2,539,496									
						ラスパイレシ指数			96.9	積立金現在高	402,709	284,428								
										減債基金	673,422	508,051								
										その他特定目的基金										
一般会計等の一覧		事業会計の一覧		公営企業(法通)の一覧		公営企業(法非通)の一覧		関係する一部事務組合等一覧		地方公社・第三セクター等一覧										
項番	会計名	項番	会計名	項番	会計名	項番	会計名	項番	組合等名	項番	団体名	(※3)								
(1)	一般会計	(2)	国民健康保険特別会計	(4)	水道事業会計	(5)	公共下水道事業特別会計	(7)	福岡県市町村消防団員等公務災害補償組合(一般会計)	(8)	福岡県市町村職員退職手当組合(一般会計)									
		(3)	後期高齢者医療特別会計			(6)	農業集落排水事業特別会計	(9)	福岡県市町村職員退職手当組合(基金特別会計)	(10)	福岡県自治会館管理組合(一般会計)									
								(11)	糟屋郡自治会館組合(一般会計)	(12)	糟屋郡篠栗町外一市五町財産組合(一般会計)									
								(13)	北筑昇華苑組合(一般会計)	(14)	粕屋南部消防組合(一般会計)									
								(15)	粕屋南部消防組合(粕屋中南部休日診療所事業特別会計)	(16)	須恵町外二ヶ町清掃施設組合(一般会計)									

(注釈) ※1: 経常収支比率の( )内の数値は、「減収補償債(特例分)」「猶予特例債」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。  
 ※2: 各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。  
 ※3: 地方公共団体が損失補償等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。  
 ※4: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。  
 ※5: 産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、分類不能の産業を除いて算出。  
 ※6: 個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「一人当たり給料月額(百円)」を「アスタリスク(\*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。  
 ※7: 人口については、調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。

(1) 普通会計の状況 (市町村)

歳入の状況 (単位 千円・%)				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比
地方税	3,177,099	26.8	3,177,099	51.2
地方譲与税	64,054	0.5	64,054	1.0
利子割交付金	1,585	0.0	1,585	0.0
配当割交付金	16,061	0.1	16,061	0.3
株式等譲渡所得割交付金	18,787	0.2	18,787	0.3
分離課税所得割交付金	-	-	-	-
地方消費税交付金	621,663	5.2	621,663	10.0
ゴルフ場利用税交付金	-	-	-	-
特別地方消費税交付金	-	-	-	-
自動車取得税交付金	-	-	-	-
軽油引取税交付金	-	-	-	-
自動車税環境性能割交付金	7,796	0.1	7,796	0.1
法人事業税交付金	42,261	0.4	42,261	0.7
地方特例交付金等	83,685	0.7	83,685	1.3
個人住民税減収補填特例交付金	47,328	0.4	47,328	0.8
自動車税減収補填特例交付金	2,531	0.0	2,531	0.0
軽自動車税減収補填特例交付金	1,306	0.0	1,306	0.0
新型コロナウイルス感染症対策地方税減収補填特例交付金	32,520	0.3	-	-
地方交付税	2,341,874	19.7	2,122,684	34.2
普通交付税	2,122,684	17.9	2,122,684	34.2
特別交付税	219,190	1.8	-	-
震災復興特別交付税	-	-	-	-
(一般財源計)	6,374,865	53.7	6,155,675	99.3
交通安全対策特別交付金	4,830	0.0	4,830	0.1
分担金・負担金	92,612	0.8	-	-
使用料	58,786	0.5	7,931	0.1
手数料	71,170	0.6	-	-
国庫支出金	2,481,994	20.9	-	-
国有提供交付金(特別区財調交付金)	-	-	-	-
都道府県支出金	807,301	6.8	-	-
財産収入	128,011	1.1	31,485	0.5
寄附金	581,287	4.9	-	-
繰入金	11,865	0.1	-	-
繰越金	443,710	3.7	-	-
諸収入	153,313	1.3	10	0.0
地方債	655,057	5.5	-	-
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-
うち猶予特例債	-	-	-	-
うち臨時財政対策債	431,057	3.6	-	-
歳入合計	11,864,801	100.0	6,199,931	100.0

地方税の状況 (単位 千円・%)				
区分	収入済額	構成比	超過課税分	
普通税	3,177,099	100.0	69,056	
法定普通税	3,177,099	100.0	69,056	
市町村民税	1,463,924	46.1	69,056	
個人均等割	46,975	1.5	-	
所得割	1,174,118	37.0	-	
法人均等割	87,143	2.7	24,614	
法人税割	155,688	4.9	44,442	
固定資産税	1,368,257	43.1	-	
うち純固定資産税	1,349,129	42.5	-	
軽自動車税	90,943	2.9	-	
市町村たばこ税	253,975	8.0	-	
鉱産税	-	-	-	
特別土地保有税	-	-	-	
法定外普通税	-	-	-	
目的税	-	-	-	
法定目的税	-	-	-	
入湯税	-	-	-	
事業所税	-	-	-	
都市計画税	-	-	-	
水利地益税等	-	-	-	
法定外目的税	-	-	-	
旧法による税	-	-	-	
合計	3,177,099	100.0	69,056	

区分	令和3年度	令和2年度
徴収率(%)	99.2	96.4
現・計	98.9	95.3
市町村民税	98.9	95.3
純固定資産税	99.3	97.0

公営事業等への繰出		国民健康保険事業会計の状況	
合計	1,274,790	実質収支	4,343
下水道	316,259	再差引収支	-40,527
上水道	19,403	加入世帯数(世帯)	3,451
工業用水道	-	被保険者数(人)	5,533
交通	-	被保険者	98
国民健康保険	237,430	保険料(料)収入額	-
その他	701,698	1人当り	378

歳出の状況 (単位 千円・%)					
目的別歳出の状況 (単位 千円・%)					
区分	決算額(A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等	
議会費	104,247	0.9	-	104,247	
総務費	2,616,549	22.8	50,736	2,473,542	
民生費	4,678,988	40.8	17,608	1,933,566	
衛生費	1,167,423	10.2	1,409	843,278	
労働費	-	-	-	-	
農林水産業費	219,304	1.9	30,767	140,983	
農工費	63,604	0.6	-	63,302	
土木費	555,089	4.8	169,461	517,016	
消防費	395,833	3.4	31,541	377,764	
教育費	1,033,556	9.0	243,731	805,075	
災害復旧費	49,233	0.4	-	18,726	
公債費	596,189	5.2	-	596,189	
諸支出金	-	-	-	-	
前年度繰上充用金	-	-	-	-	
歳出合計	11,480,015	100.0	545,253	7,873,688	

性質別歳出の状況 (単位 千円・%)					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	5,084,575	44.3	2,561,401	2,492,268	37.6
人件費	1,512,820	13.2	1,320,995	1,278,170	19.3
うち職員給	941,072	8.2	775,954	-	-
扶助費	2,975,566	25.9	644,217	617,909	9.3
公債費	596,189	5.2	596,189	596,189	9.0
元利償還金	596,189	5.2	596,189	596,189	9.0
うち元金	573,708	5.0	573,708	573,708	8.7
うち利子	22,481	0.2	22,481	22,481	0.3
一時借入金利子	-	-	-	-	-
その他の経費	5,800,954	50.5	5,009,768	3,220,946	48.6
物件費	2,346,418	20.4	1,854,474	1,263,224	19.1
維持補修費	71,203	0.6	70,233	62,586	0.9
補助費等	1,207,500	10.5	1,112,202	924,715	13.9
うち一部事務組合負担金	677,549	5.9	677,549	667,192	10.1
繰入金	1,255,387	10.9	1,059,629	970,421	14.6
積立金	902,043	7.9	899,927	-	-
投資・出資金・貸付金	18,403	0.2	13,303	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	594,486	5.2	302,519	-	-
うち人件費	15,735	0.1	15,735	-	-
普通建設事業費	545,253	4.7	283,793	-	-
うち補助	53,846	0.5	16,219	-	-
うち単独	491,407	4.3	267,574	-	-
災害復旧事業費	49,233	0.4	18,726	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	11,480,015	100.0	7,873,688	-	-

(注釈)  
 普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、  
 単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（市町村）

令和3年度 福岡県須恵町

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	11,865	11,480	385	382	1	7,382	
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							
108							
109							
110							
111							
112							
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							
130							
131							
132							
133							
134							
135							
136							
137							
138							
139							
140							
141							
142							
143							
144							
145							
146							
147							
148							
149							
150							
151							
152							
153							
154							
155							
156							
157							
158							
159							
160							
161							
162							
163							
164							
165							
166							
167							
168							
169							
170							
171							
172							
173							
174							
175							
176							
177							
178							
179							
180							
181							
182							
183							
184							
185							
186							
187							
188							
189							
190							
191							
192							
193							
194							
195							
196							
197							
198							
199							
200							
201							
202							
203							
204							
205							
206							
207							
208							
209							
210							
211							
212							
213							
214							
215							
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							
224							
225							
226							
227							
228							
229							
230							
231							
232							
233							
234							
235							
236							
237							
238							
239							
240							
241							
242							
243							
244							
245							
246							
247							
248							
249							
250							
251							
252							
253							
254							
255							
256							
257							
258							
259							
260							
261							
262							
263							
264							
265							
266							
267							
268							
269							
270							
271							
272							
273							
274							
275							
276							
277							
278							
279							
280							
281							
282							
283							
284							
285							
286							
287							
288							
289							
290							
291							
292							
293							
294							
295							
296							
297							
298							

# (3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

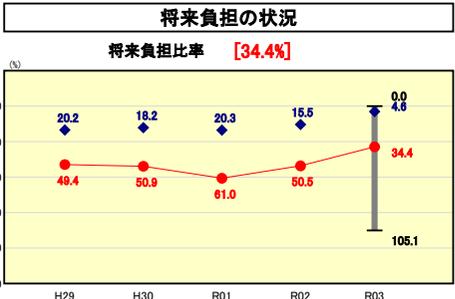
令和3年度

福岡県須恵町

人口	29,045	人(R4.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	28,753	人(R4.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	16.31	km <sup>2</sup>	実質公債費比率	7.0	%
歳入総額	11,864,801	千円	将来負担比率	34.4	%
歳出総額	11,480,015	千円	市町村類型	H29 V-2 H30 V-2 R01 V-2	
実質収支	382,100	千円	(年度毎)	R02 V-2 R03 V-2	
標準財政規模	6,364,765	千円			
地方債現在高	7,381,919	千円			



※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。  
 ※令和4年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出してない団体については、グラフを表記しない。  
 ※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。  
 ※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。  
 ※人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。  
 ※類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和3年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



類似団体内順位 69/99 全国平均 15.4 福岡県平均 49.0

#### 将来負担比率の分析欄

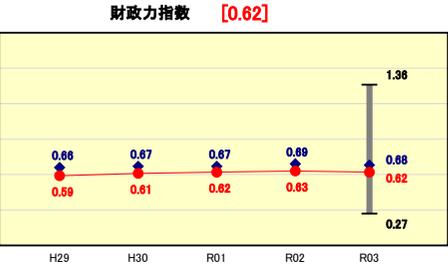
将来負担比率は、充当可能基金が889百万円ほど増加(財政調整基金+607百万円、減債基金+118百万円、ふるさと応援基金+174百万円)したことにより、16.1%改善された。しかし、依然類似団体とのかい離は29.8ポイントと大きい。  
 今後は公共施設の更新等が控え、地方債残高の増が懸念されるため、事業実施の適正化と充当可能基金を増やすなどとして、財政の健全化に努める。

## 財政力

類似団体内順位 56/99 全国平均 0.50 福岡県平均 0.53

#### 財政力指数の分析欄

人口増加により町税等も年々伸びてきたため、平成29年度から改善傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症の影響による減収と高齢化に伴う扶助費・補助費等の支出の増加に伴い、財政力指数は、0.62(昨年度比▲0.01)となった。  
 類似団体平均とのかい離は昨年度同様であり、類似団体においても同様の状況と言える。  
 今後は、新型コロナウイルス感染症からの脱却による増収が見込まれ、人口も当分の間は増えると予想され町税等の増収の伸びも見込まれる。

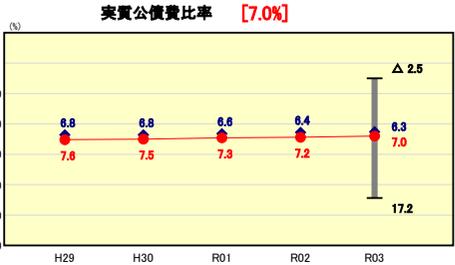


## 公債費負担の状況

類似団体内順位 62/99 全国平均 5.5 福岡県平均 7.7

#### 実質公債費比率の分析欄

20年以上前に借入を実施した比較的高額・高利率な借入が近年償還終了を迎えてきており、ここ数年は実質公債費比率は向上してきている。  
 今後は既存公共施設の老朽化による改修・更新などが見込まれ公債費は増加していく予定である。令和4年度に財政計画を策定し、公共施設等総合管理計画との整合性を図りながら、中長期的な視点で、事業費や新規の地方債発行の平準化を図り、財政の健全化に努めていく。

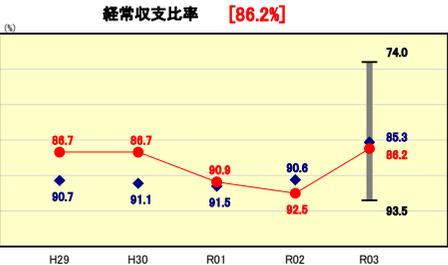


## 財政構造の弾力性

類似団体内順位 56/99 全国平均 89.9 福岡県平均 90.5

#### 経常収支比率の分析欄

令和元年度まで類似団体平均を下回っていたが、令和2年度から上回っている。令和3年度は人件費や扶助費の義務的経費の増はあったものの、増収等の増により、昨年度より5.3ポイント改善されたが、依然、類似団体より高い水準となっている。  
 今後も人件費、扶助費及び公債費の義務的経費の増加が見込まれ、財政の硬直化が進むものと考えられる。人口増による増収は見込めるが、使用料等の料金改定を行うなど適正化をはかり、安定した財源の確保に努める。



## 定員管理の状況

類似団体内順位 9/99 全国平均 8.21 福岡県平均 8.42

#### 人口1,000人当たり職員数の分析欄

平成20年辺りからの新規採用抑制策により類似団体平均値を大きく下回っている。町の人口は、近年増加が続いており、この傾向はしばらくは続くと思われる。  
 今後は、定年延長による職員数の増加が考えられ、現在行っているアウトソーシングの見直しや電子化の推進、行政評価に基づく事業の統廃合を図り、内部管理事務の抜本的見直しを中心とした組織の簡素化を進め、現状を維持・向上できるように努める。

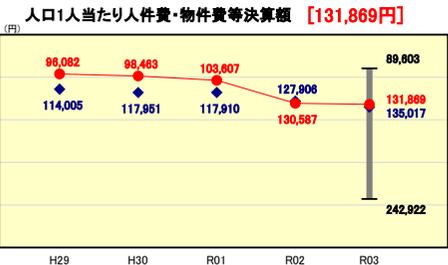


## 人件費・物件費等の状況

類似団体内順位 57/99 全国平均 155,088 福岡県平均 155,013

#### 人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄

令和2年度まで類似団体平均を上回る結果となったが、令和3年度は若干ではあるが、下回る結果となった。しかし、人口1人当たりの額は131,869円(昨年度比+1,282円)であり、人件費の増によるものが要因である。  
 令和元年度から業務の民営化を進めており、人件費の精査に引き続き努めた。

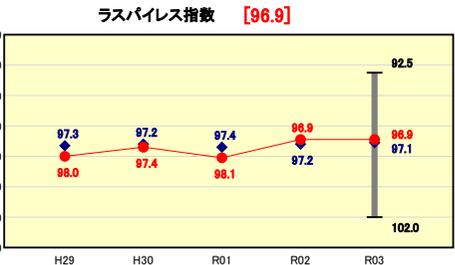


## 給与水準 (国との比較)

類似団体内順位 41/99 全国市平均 98.8 全国町村平均 96.3

#### ラスパイレース指数の分析欄

現行の給料表は年功的な体系となっており、上下の職務の級間での水準の重なりも大きいものとなっている。比較的都市部に近いこともあり、全国町村平均よりは高くなってしまっている。人事評価をもとに、こうした年功的な要素が強い給料表の構造を見直し、職務・職責に応じた構造への転換を図る観点から、職務の級間の給料表水準の重なり縮小、枠外昇給制度の廃止などの措置を講じることにより、ラスパイレース指数を全国町村平均まで低下させるとともに、住民に理解を得られない手当の抜本的見直しを行う。



# (4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和3年度

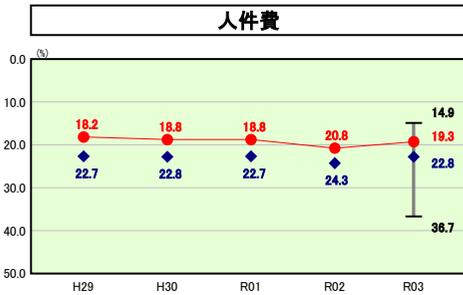
福岡県須恵町

## 経常収支比率の分析

人口	29,045人	(R4.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	28,753人	(R4.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	16.31km <sup>2</sup>		実質公債費比率	7.0%
歳入総額	11,864,801千円		将来負担比率	34.4%
歳出総額	11,480,015千円		市町村類型	H29 V-2 H30 V-2 R01 V-2
実質収支	382,100千円		(年度毎)	R02 V-2 R03 V-2
標準財政規模	6,364,765千円			
地方債現在高	7,381,919千円			



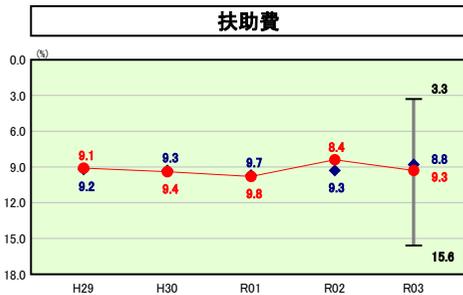
※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。  
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。  
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和3年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



類似団体内順位 23/99 全国平均 25.2 福岡県平均 24.6

#### 人件費の分析欄

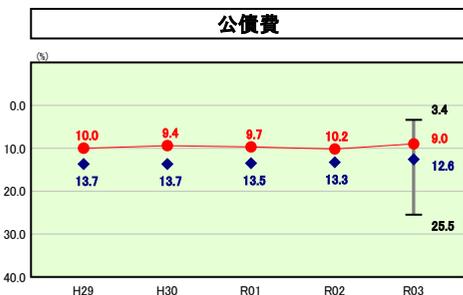
類似団体と比較して人件費の数値が低いのは職員数が少ないため、令和3年度で類似団体平均値より3.5ポイント低い値となっているが、職員数は増加傾向にあり、類似団体との差は縮小傾向にある。今後も平均値を下回るよう引き続き職員数の適正化を図り、行財政改革の取り組みと並行して人件費の削減に努める。



類似団体内順位 57/99 全国平均 12.0 福岡県平均 13.9

#### 扶助費の分析欄

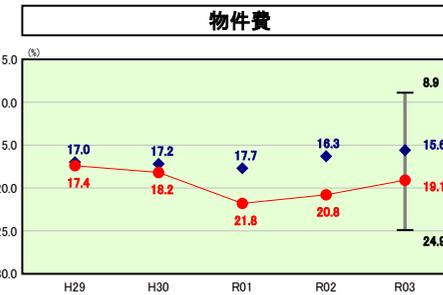
令和2年度は類似団体と比較し、低い値となっていたが、幼稚園・保育所の民営化による保育サービスの拡充と障がい者支援費等の増により、令和3年度は類似団体を0.5ポイント上回る結果となった。しかしながら、保育サービスについて、費用の増は、子どもの数も増加しており、待機児童解消に向けた取り組みの成果とも言え、今後も適正なサービスの提供を積極的に行ってきたい。



類似団体内順位 15/99 全国平均 15.7 福岡県平均 17.8

#### 公債費の分析欄

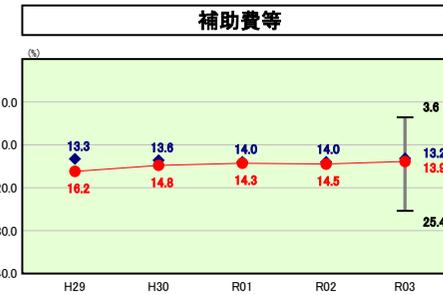
類似団体平均と比較し、令和3年度は3.6ポイント下回っており、前年度比も▲1.2%改善された。これは、総合運動公園整備事業債の償還終了の影響であり、一時的で今後は公共施設の更新等で、公債費の増が見込まれ、令和10年にピークを迎える。そのため、公共施設等個別施設計画に基づき、施設の統廃合を進め、事業費の抑制や新規の地方債発行の平準化を図り、財政の健全化に努めていく。



類似団体内順位 84/99 全国平均 13.8 福岡県平均 12.7

#### 物件費の分析欄

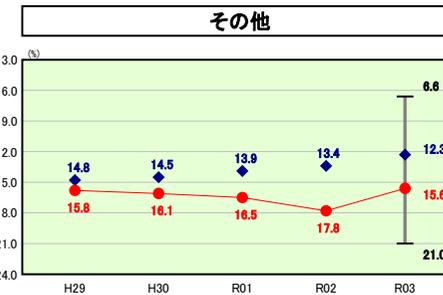
令和元年度から直接雇用であった臨時職員が包括業務に移行したことで、物件費は類似団体平均を大きく上回っている。令和2年度と比較し、令和3年度は1.7%改善をしているが、これは税収等の収入が増えたためであり、経常物件費については30百万円ほど増加している。令和4年度からは町立幼稚園・保育所が民営化され、保育士派遣委託などの物件費が削減され、改善が予想される。



類似団体内順位 60/99 全国平均 10.2 福岡県平均 9.3

#### 補助費等の分析欄

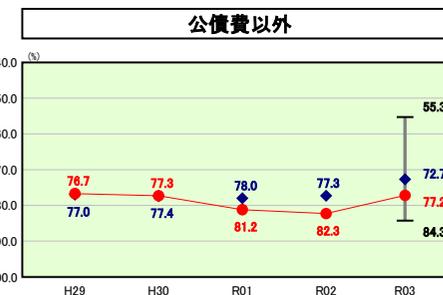
類似団体平均値とのかい離は令和2年度で0.5ポイント、令和3年度で0.7ポイント上回り、その差は広がっている。主な要因としては、清掃施設組合への負担金が増加していることが大きく、今後も燃料費の高騰や施設更新により負担金の増が見込まれ、類似団体とのかい離が進むことが予想される。その他団体への補助金も人件費の増などで増加傾向にあり、必要性の低い補助金は見直し、廃止を行う方針である。



類似団体内順位 86/99 全国平均 12.0 福岡県平均 12.2

#### その他の分析欄

令和2年度と比較し、令和3年度は2.2%改善されているが、主な要因としては、介護保険への負担金と公共下水道特別会計の繰出金は合わせて、51百万円程減少したことが大きい。しかしながら、後期高齢者医療療養給付事業への負担金等は増加傾向にあり、介護予防と医療の一体となった対策を講じ、高額医療等の発生を抑制し、財政の健全化に努める必要がある。



類似団体内順位 82/99 全国平均 73.2 福岡県平均 72.7

#### 公債費以外の分析欄

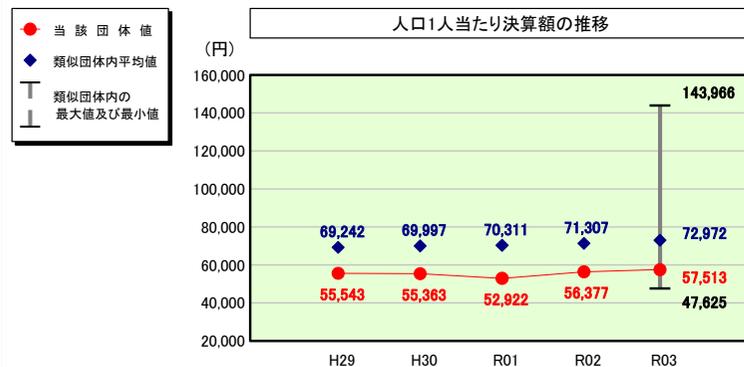
平成30年度まで類似団体平均を下回っていたが、令和元年度で3.2ポイント、令和2年度で5.0ポイント上回り、令和4年度は4.5ポイントと若干類似団体とのかい離は縮まったが、人件費、物件費等が増加傾向にあり、財政を圧迫している。各特別会計への繰出金を減らすべく各利用料金や保険料の見直し、事業の適正化を図ることはもとより、税収を含めた自主財源の確保を主目標とし、財政の健全化を図っていく。

## (4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

令和3年度

福岡県須恵町

### 人件費及び人件費に準ずる費用の分析



### 人件費及び人件費に準ずる費用

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額	
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円) 対比 (%)
人件費	1,512,820	52,085	65,075 ▲ 20.0
一部事務組合負担金(補助費等)	228,206	7,857	8,175 ▲ 3.9
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	-	-	364 -
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	18 -
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	29,754	1,024	2,565 ▲ 60.1
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	15,735	542	1,231 ▲ 56.0
▲退職金	▲ 116,048	▲ 3,995	▲ 4,456 ▲ 10.3
合計	1,670,467	57,513	72,972 ▲ 21.2

### 参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	4.72	6.56	▲ 1.84
ラスパイレス指数	96.9	97.1	▲ 0.2

(注) 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登載されている人口に基づいている。

### 公債費及び公債費に準ずる費用の分析

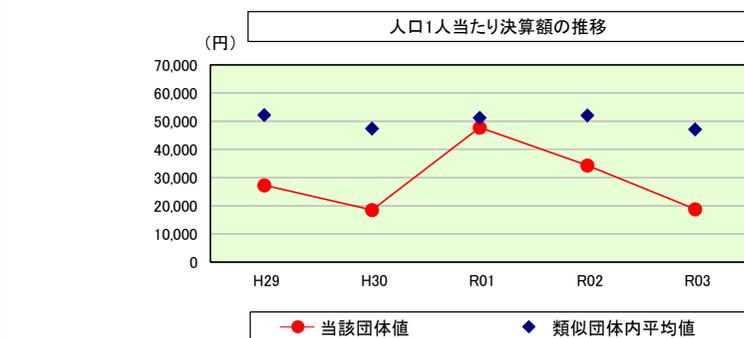


### 公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額	
		当該団体 (円)	類似団体平均 (円) 対比 (%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	596,189	20,526	32,092 ▲ 36.0
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	309,419	10,653	8,882 19.9
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	-	-	1,893 -
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	33,693	1,160	971 19.5
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	-	-	0 -
▲特定財源の額	-	-	▲ 3,104 -
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 583,563	▲ 20,092	▲ 27,365 ▲ 26.6
合計	355,738	12,248	13,369 ▲ 8.4

※令和4年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

### (参考) 普通建設事業費の分析



### 普通建設事業費

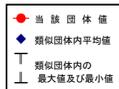
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	類似団体平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)
H29	765,900	27,272	▲ 33.1	52,191	9.3	▲ 42.4
うち単独分	581,958	20,722	▲ 24.2	24,843	▲ 0.4	▲ 23.8
H30	528,223	18,499	▲ 32.2	47,387	▲ 9.2	▲ 23.0
うち単独分	314,511	11,015	▲ 46.8	24,928	0.3	▲ 47.1
R01	1,373,087	47,779	158.3	51,264	8.2	150.1
うち単独分	875,458	30,463	176.6	26,040	4.5	172.1
R02	993,281	34,347	▲ 28.1	52,068	1.6	▲ 29.7
うち単独分	458,691	15,861	▲ 47.9	26,936	3.4	▲ 51.3
R03	545,253	18,773	▲ 45.3	47,161	▲ 9.4	▲ 35.9
うち単独分	491,407	16,919	6.7	24,595	▲ 8.7	15.4
過去5年間平均	841,149	29,334	3.9	50,014	0.1	3.8
うち単独分	544,405	18,996	12.9	25,468	▲ 0.2	13.1

# (5)市町村性質別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

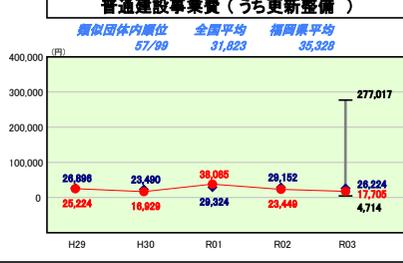
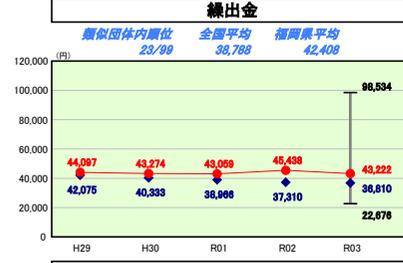
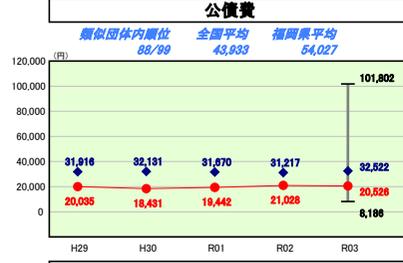
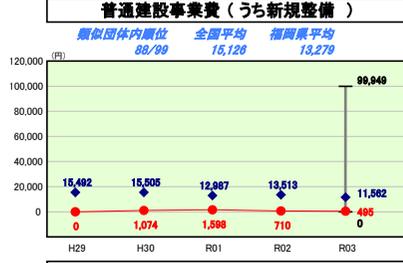
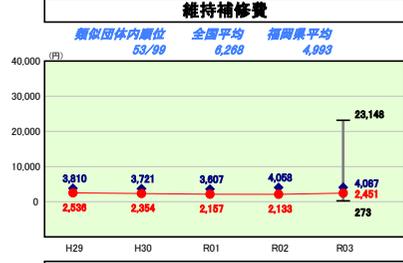
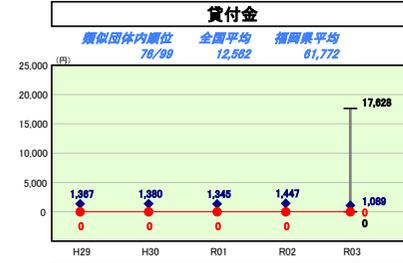
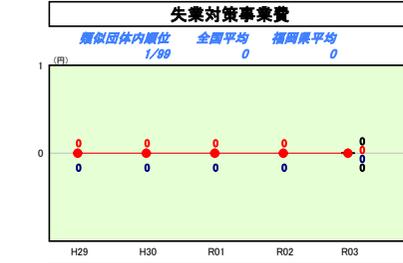
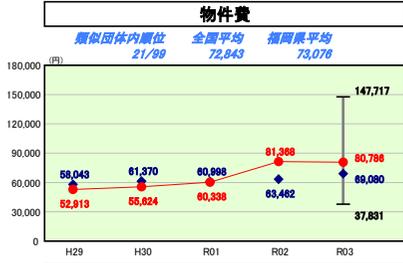
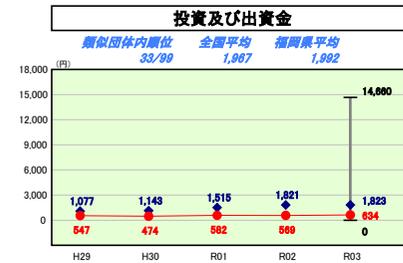
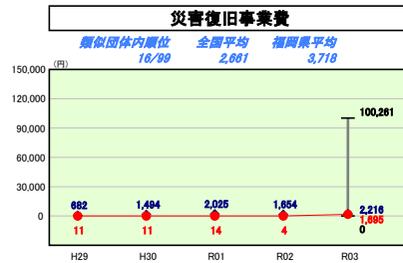
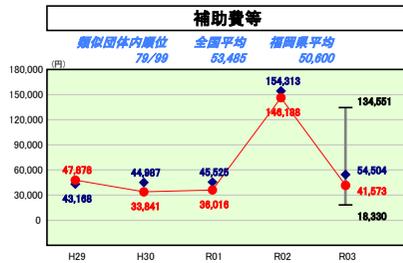
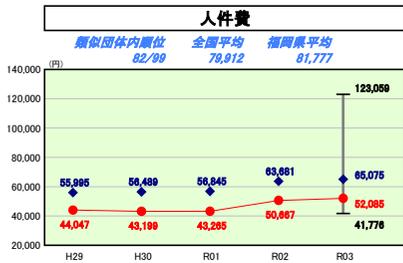
令和3年度

福岡県須恵町

人口	29,045 人(R4.1.1現在)	実質赤字比率	- %
うち日本人	28,763 人(R4.1.1現在)	連結実質赤字比率	- %
面積	16.31 km <sup>2</sup>	実質公債費比率	7.0 %
入居総額	11,864,801 千円	将来負担比率	34.4 %
歳入総額	11,480,015 千円	市町村類型	H29 V-2 H30 V-2 R01 V-2
歳出総額	382,100 千円	(年度毎)	R02 V-2 R03 V-2
実質収支	6,364,785 千円		
標準財政規模	7,381,919 千円		
地方債現在高			



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。  
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。  
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和3年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



#### 性質別歳出の分析概

歳出決算総額は、住民一人当たり395,249円で前年度と比較し68,003円の減となっている。性質別歳出で類似団体と違いが大きいもので、物件費、扶助費が類似団体を上回り、人件費、補助費等、普通建設事業費、公債費で類似団体を下回っている。  
 物件費は、類似団体以下の水準であったが、令和2年度はふるさと応援事業の拡大により、類似団体を大きく上回る結果となっている。令和3年度はふるさと応援事業が低迷したため、類似団体とのかい離は縮まったが、今後もこの水準を維持できるように努めたい。  
 人件費は52,085円で、類似団体内平均値よりも2,990円低い数値となっており、10年以上前から職員数の削減を進めており、以降類似団体と比較しても同じ低い水準を維持できている。今後も、現状を維持できるように努める。  
 補助費等は、51,579千円と類似団体とのかい離は12,931円と下回っており、近年で最も広がった。新型コロナウイルス感染症対策で、各自治体実情に合った補助を展開しており、状況はさまざまであるが、本町の実情に合った支援事業に努めたい。  
 普通建設事業費は、新規整備分は低水準で推移し、令和3年度も同様である。ただし、今後公共施設の更新により増額が見込まれるため、個別計画に基づき事業費の平準化に努める。  
 扶助費は年々増加傾向にあり、主な要因は保育施設負担金・委託料と障がい者支援費・自立支援給付費で、令和3年度類似団体を上回った。公債費は、令和3年度は若干減少したが、今後は増加に転じ、令和10年までピークを迎える。今後は公共施設等個別施設計画を活用し公債費の平準化を目指す。  
 積立金は、不動産売却収入等臨時的な収入を財源としているが、令和3年度は決算剰余金の影響により、財政調整基金を513百万円積み立てることができ、類似を上回る結果となった。

# (6)市町村目的別歳出決算分析表(住民一人当たりのコスト)

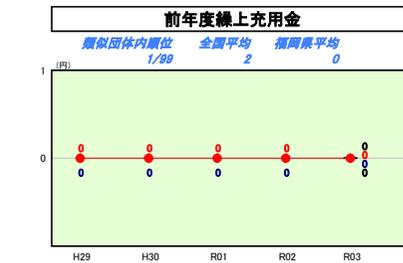
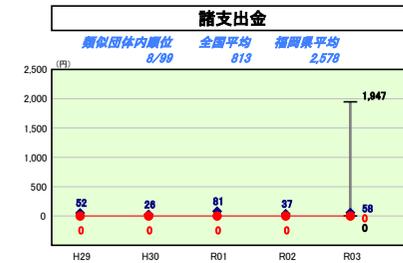
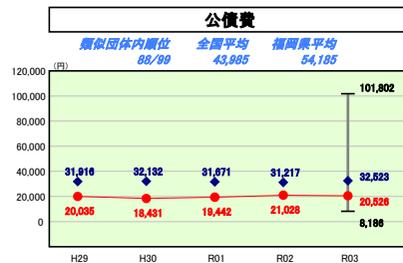
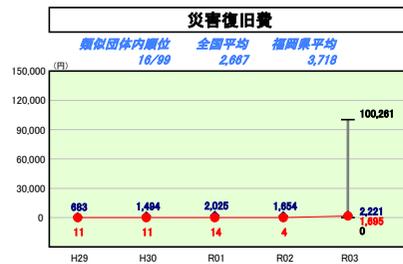
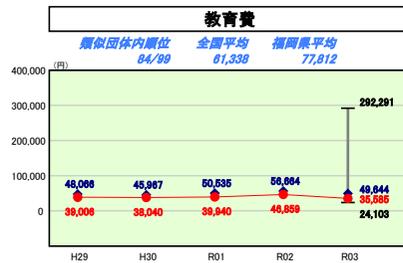
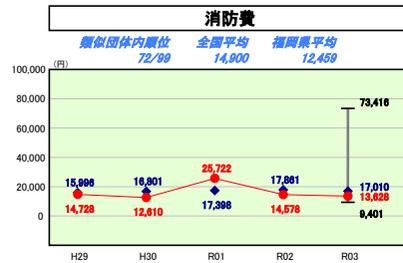
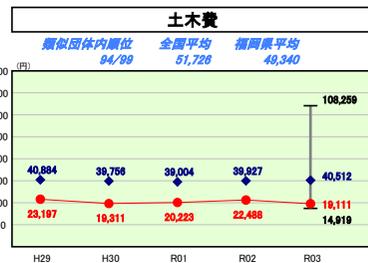
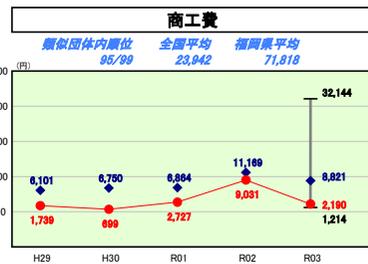
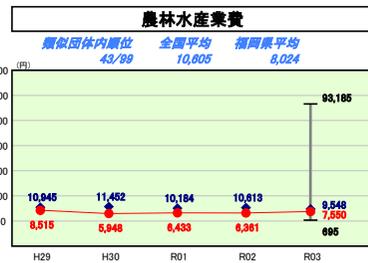
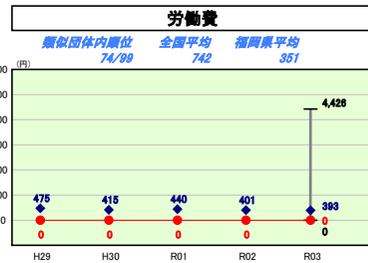
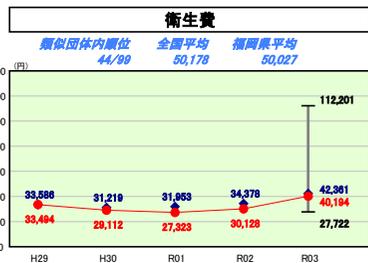
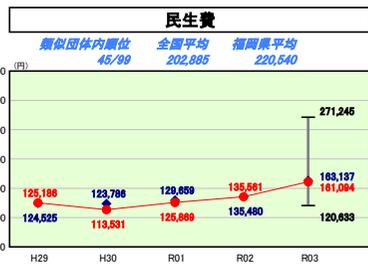
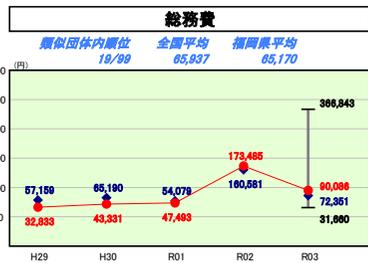
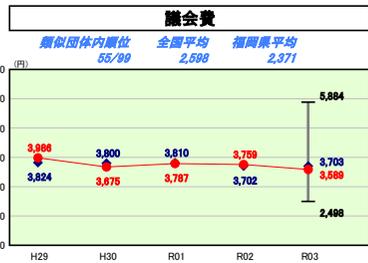
令和3年度

福岡県須恵町

人口	29,045 人(R4.1.1現在)	実質赤字比率	- %
うち日本人	28,763 人(R4.1.1現在)	連結実質赤字比率	- %
面積	18.31 km <sup>2</sup>	実質公債費比率	7.0 %
入総額	11,864,801 千円	将来負担比率	34.4 %
出総額	11,480,015 千円	市町村類型	H29 V-2 H30 V-2 R01 V-2
実収支	382,100 千円	(年度毎)	R02 V-2 R03 V-2
標準財政規模	6,364,785 千円		
地方債現在高	7,381,919 千円		

● 当該団体値  
◆ 類似団体内平均値  
T 類似団体内の  
最大値及び最小値

※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。  
※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。  
※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和3年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。



## 目的別歳出の分析

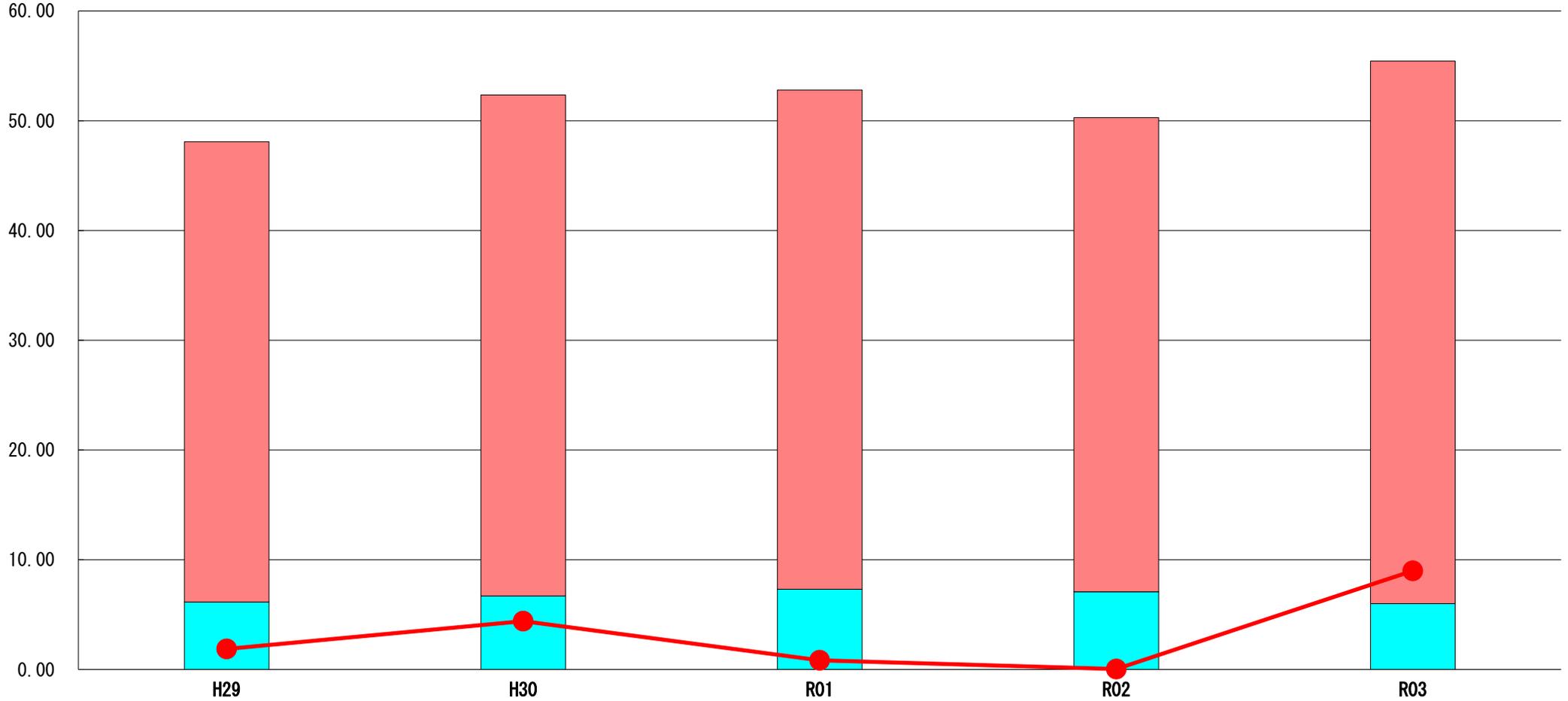
類似団体内平均値と比較して、土木費、教育費、公債費で大きく下回っている。  
土木費は、道路や橋梁等のインフラにかかる工事を必要最低限の範囲のみで実施しており、事業費を抑制しているためである。  
教育費は、物件費等を最小限に抑える努力をしておき、施設の維持管理以外の支出を抑制した結果、当町の上げ幅以上に類似団体平均値が増加しかい離が大きくなっているが、今後は長寿命化事業等の大規模事業の影響で事業費増が予想される。  
公債費は、平成初頭辺りで新規借入した借入額の大きな町債が償還終了を迎えてきており、加えて借入の抑制を実施している結果が数値に現れているが、今後は防災行政無線更新等の大規模事業の償還が始まり増加傾向となる。  
今回、総務費で類似団体を大きく上回ることとなったが、これは財政調整基金積立金の増によるものである。

# (7) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）

令和3年度

福岡県須恵町

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

区分	年度	H29	H30	R01	R02	R03
 財政調整基金残高		41.95	45.65	45.49	43.20	49.43
 実質収支額		6.14	6.70	7.31	7.08	6.00
 実質単年度収支		1.87	4.40	0.84	0.04	8.99

## 分析欄

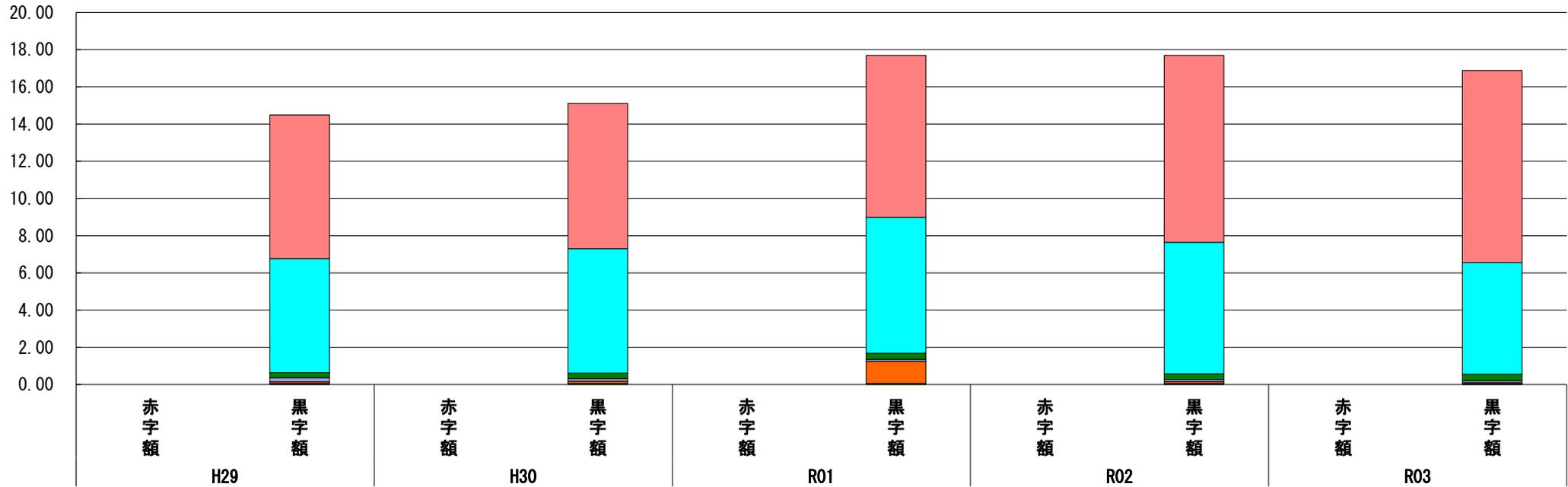
令和3年度、実質単年度収支は、決算余剰金を財政調整基金に607百万円積立てることができたため、過去最高水準となった。同様に、財政調整基金残高についても、過去最高水準となった。実質収支額は382百万円と例年並みの水準であるが、令和2年度に比べ、標準財政規模が大きくなっているため、標準財政規模比に関しては、6.00と減少している。

## (8) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

令和3年度

福岡県須恵町

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

会計	年度	H29	H30	R01	R02	R03
水道事業会計		7.72	7.81	8.70	10.04	10.33
一般会計		6.13	6.69	7.31	7.08	6.00
後期高齢者医療特別会計		0.28	0.29	0.32	0.30	0.35
公共下水道事業特別会計		0.22	0.15	0.12	0.11	0.10
国民健康保険特別会計		0.09	0.11	1.18	0.11	0.06
農業集落排水事業特別会計		0.05	0.06	0.06	0.05	0.04
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		-	-	-	-	-

### 分析欄

令和3年度は、一般会計をはじめ特別会計、水道事業会計全ての会計において黒字決算であり、例年並みの水準を維持できたといえる。

しかし、農業集落排水事業特別会計では、一般会計より41,830千円の繰入、公共下水道事業特別会計に関しても毎年3億円近い額を一般会計から繰入しており、令和3年度も274,429千円を一般会計から繰入している。また、現在も管渠延長工事がまだ町全体までは完了しておらず、今後も10年以上先まで新規延長工事や更新工事が控えており、一般会計の財政を圧迫する大きな要因のひとつとなっており、料金改定等を行い、一般会計からの繰入を抑える必要がある。

また、後期高齢者医療特別会計については、被保険者数の増に伴う予算規模の拡大により、一般会計からの繰入金は増加傾向にある。

水道事業会計については、一般会計からの赤字補てんはおこなっておらず、独立して採算が取れている。水道事業会計だけでなく、他の特別会計を含めすべての事業の集約やコンパクト化を図り、町全体の財政健全化に努めていく。

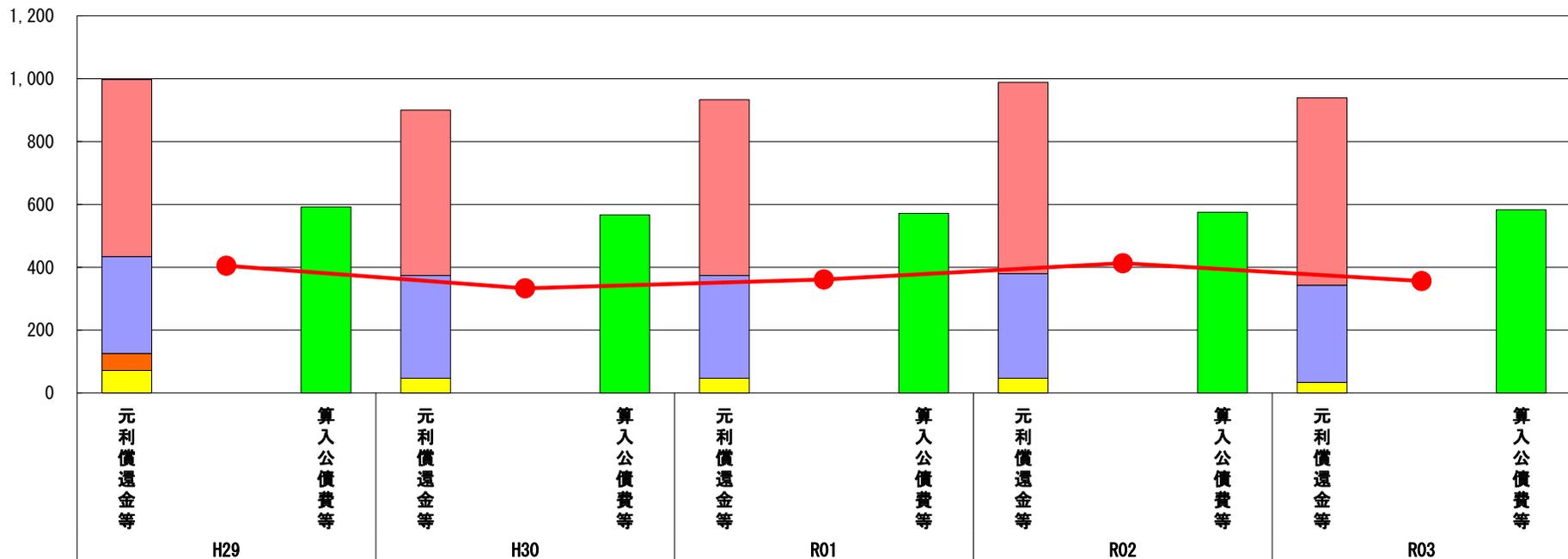
※令和4年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

# (9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

令和3年度

福岡県須恵町

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H29	H30	R01	R02	R03
元利償還金等 (A)	元利償還金		563	526	559	608	596
	減債基金積立不足算定額※2		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		308	327	327	333	309
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		54	-	-	-	-
	債務負担行為に基づく支出額		72	47	47	47	34
	一時借入金の利子		-	-	-	-	-
算入公債費等 (B)	算入公債費等		592	567	572	575	583
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		405	333	361	413	356

### 分析欄

令和3年度の実質公債費比率は7.0で前年度よりも0.2ポイント下がり改善された。  
 また、令和3年度決算における実質公債費率を見ると、財政標準規模が大きくなり、元利償還金と公営企業債の元利償還金に対する繰入金が減少したため、6.2%となっている。しかしながら、令和3年度以降は大規模事業の償還が開始され、公債費の上昇は続き、令和10年にピークを迎える。公共施設の更新についても、個別計画に基づき事業費の平準化に努め、実質公債費率の上昇を抑える必要がある。  
 また、組合等が起こした地方債の元利償還に対する負担金等は現在ないが、清掃施設組合の更新工事も控えており、今後は多額の負担金が発生し、財政圧迫の要因になると予想される。

※1 令和4年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考)

(百万円)

		年度	H28末	H29末	H30末	R01末	R02末
※2 減債基金積立状況等	減債基金残高(注)						
	減債基金積立相当額						

### 分析欄

該当なし

(注) 減債基金残高のうち、実質公債費比率の算定に用いる満期一括償還地方債の償還の財源として積み立てた額に係るもののみを記入。

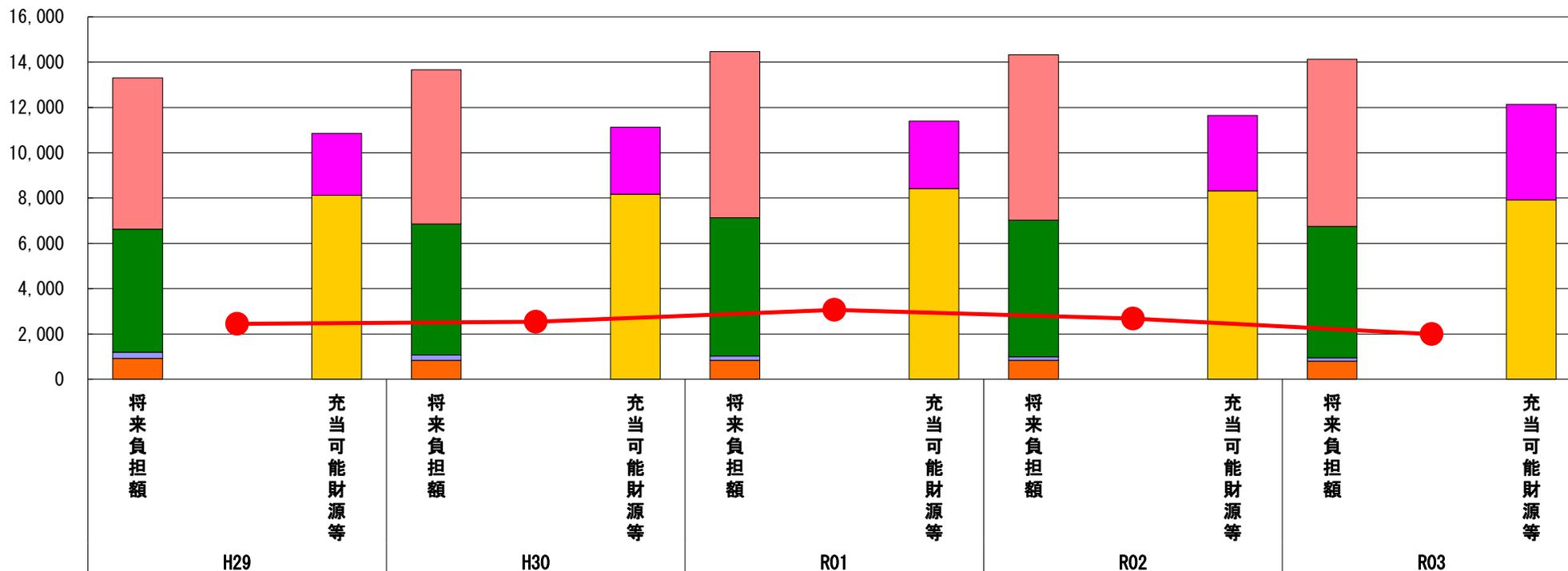
減債基金積立金の年度を超えた一般会計又は特別会計への貸付額は控除して記入。

# (10) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

令和3年度

福岡県須恵町

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H29	H30	R01	R02	R03
将来負担額 (A)	一般会計等に係る地方債の現在高		6,681	6,803	7,331	7,301	7,382
	債務負担行為に基づく支出予定額		-	-	-	-	-
	公営企業債等繰入見込額		5,430	5,791	6,106	6,033	5,800
	組合等負担等見込額		272	232	191	157	148
	退職手当負担見込額		921	835	836	837	801
	設立法人等の負債額等負担見込額		-	-	-	-	-
	うち、健全化法施行規則第三条に係る負担見込額		-	-	-	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
	充当可能基金		2,738	2,951	2,984	3,330	4,219
	充当可能特定歳入		-	-	-	-	-
	基準財政需要額算入見込額		8,122	8,172	8,417	8,319	7,920
(A) - (B)	将来負担比率の分子		2,444	2,538	3,063	2,678	1,991

## 分析欄

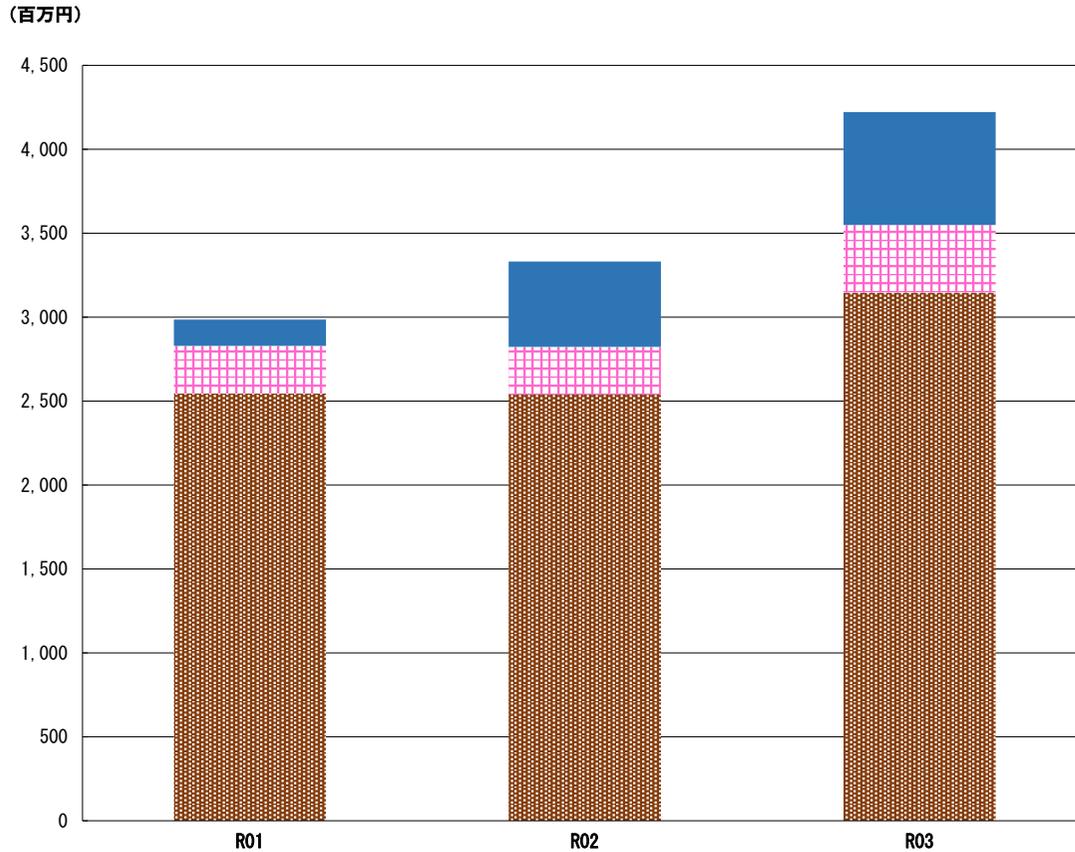
将来負担比率が令和2年度の50.5から令和3年度の34.4へ16.1ポイント減少した要因は、充当可能基金である財政調整基金が607百万円、減債基金が118百万円、ふるさと応援基金が174百万円増え、合計で889百万円の増になったためである。

また、将来負担額を構成する公営企業債等繰入見込額についても200百万円の減となったことも大きい。

今後は一般会計等に係る地方債残高は増加する傾向にあるため、ふるさと応援寄附金事業を拡大し、できる限りの基金積立を毎年行っていく予定である。

※令和4年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

# (11) 基金残高（東日本大震災分を含む）に係る経年分析（市町村）



区分	年度	R01	R02	R03
財政調整基金 減債基金 その他特定目的基金	財政調整基金	2,545	2,539	3,146
	減債基金	284	284	403
	その他特定目的基金	157	508	673
	ふるさと応援基金	24	374	547
	水道水源保全基金	112	112	112
	自然教育林基金	20	20	11
森林環境譲与税基金	1	2	3	
基金残高合計		2,986	3,332	4,222

令和3年度	福岡県須恵町
-------	--------

## 基金全体

### (増減理由)

令和3年度の基金残高は4,222百万円で889百万円の増となった。  
 財政調整基金については、臨時的な収入である不動産売却収入や寄附金等の収入を中心に積立をし、令和3年度については、決算余剰金が大幅に出たため、607百万円の増となった。  
 減債基金については、普通交付税の臨時財政対策償還基金費分の118百万円を積み立てることができた。  
 ふるさと応援基金については、寄附金額の30%の174百万円を積立した。  
 その他の基金については、近年取崩しは利息分の積立による微増となっている。

### (今後の方針)

基金の使途の明確化や今後の公共施設の更新等に備えるために、財政調整基金の残高を一定に保ちつつ、公共施設の管理を目的とした特定目的基金に積み立てていくことを検討している。  
 ふるさと応援基金については、今後も事業拡大を進めており、寄附者の意向を反映した上で、今後必要とされる子育て支援や社会保障などの基金目的

## 財政調整基金

### (増減理由)

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の支援事業を展開し、1億円の取り崩しを行ったが、令和3年度については、大規模事業の抑制や事業見直しを行い歳出を抑えたことと、当初見込んでいた減収がそれほどなく決算余剰金が大幅に出たため、607百万円の積立をする結果となった。

### (今後の方針)

今後多くの公共施設の改修や更新が目前に控えているため、財源補てん分としての取崩しは最小限となるよう、事業の抑制を行なっている。  
 現在、基金の運用は全額定期預金としているが年々預金金利が下がっており、預金による残高の増額も期待できないため、国債等の証券での運用も視野に入れ準備を進めている。

## 減債基金

### (増減理由)

普通交付税の臨時財政対策償還基金費分の118百万円を積立したことによる増となっている。

### (今後の方針)

近年中に減債基金を取り崩しての償還は計画してはいるが、今後上昇が懸念される公債費や突発的な償還に備え現在の残高の維持に努めることとしている。

## その他特定目的基金

### (基金の使途)

水道水源保全基金：水道水源資源の保全、水道水の給水確保及び水源涵養事業などの推進を図る。  
 ふるさと応援基金(新設)：ふるさと応援寄附金を財源として寄附者の意向を反映した施策に活用し、また基金として将来に備える。  
 自然教育林基金：官民一体で森林機能の高揚をはかり、町土、水、緑、生活文化の保全と、美しい安らぎのある町づくりに資する。  
 森林環境譲与税基金：国からの森林環境譲与税を財源とし、間伐や人材育成、担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等の森林整備及びその促進とする。

### (増減理由)

水道水源保全基金：令和元年度は事業充当のための取崩しは実施しておらず、定期預金としての利息分を積み立てるのみの増加となっている。  
 ふるさと応援基金：寄附額の30%の額の174百万円に積み立て増となった。  
 自然教育林基金：令和3年度は充当事業のために9百万円の取崩しを行い、減となった。  
 森林環境譲与税基金：令和3年度に交付された森林環境譲与税が実施事業費を上回ったため、微増となった。

### (今後の方針)

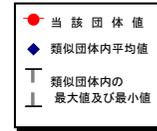
水道水源保全基金：該当事業実施となるまでは、現在の残高を維持するよう努める。  
 ふるさと応援基金：新設されたばかりのため、数年は積立を行い、今後の事業に備えることとしている。  
 自然教育林基金：該当事業実施となるまでは、現在の残高を維持するよう努める。  
 森林環境譲与税基金：財源が交付金であるため、当年度に積立てた分を次年度に事業実施し、計画的に効果実現に努める。

# (12)市町村公会計指標分析／財政指標組合せ分析表

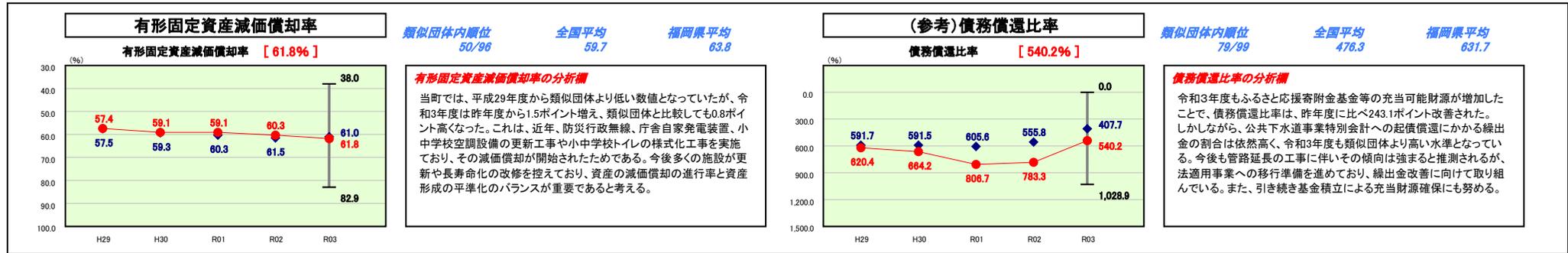
令和3年度

福岡県須恵町

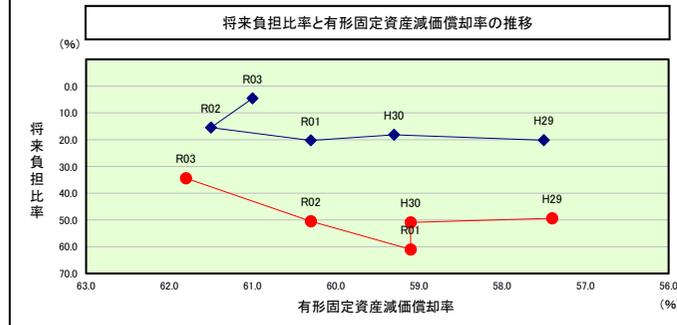
人口	29,045人 (R4.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	28,753人 (R4.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	16.31km <sup>2</sup>	実質公債費比率	7.0%
歳入総額	11,864,801千円	将来負担比率	34.4%
歳出総額	11,480,015千円	市町村類型	H29 V-2 H30 V-2 R01 V-2
実質収支	382,100千円	(年度毎)	R02 V-2 R03 V-2
標準財政規模	6,364,765千円		
地方債現在高	7,381,919千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。  
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。  
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和3年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。  
 ※ 令和4年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体毎の決算に基づく健全化判断比率等を算出していない団体については、債務償還比率、実質公債費率、将来負担比率のグラフを表記しない。  
 ※ 類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答のあった団体に関するもの。



## 将来負担比率及び有形固定資産減価償却率の組合せによる分析

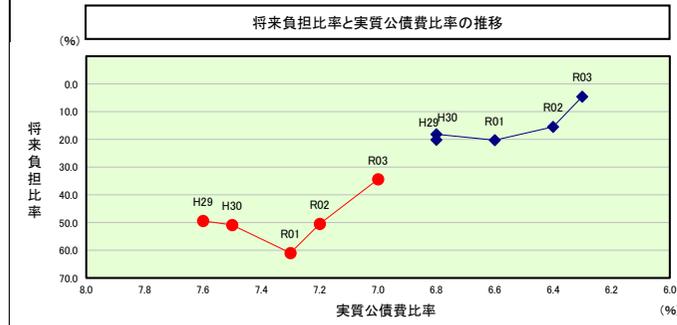


**分析欄**  
 類似団体と比較して将来負担比率がかなり高くなっているが、これは将来負担額中の公営企業債等繰入見込額の金額の割合が高く、さらに年々増加傾向にあり、これが数値上昇の主な要因となっている。令和2年度から3年度においてはふるさと応援基金等の充当可能財源が増加し、将来負担比率は減少傾向にある。しかしながら、今後も小中学校の長寿命化の更新工事等大規模工事が控えており、地方債残高の増加が懸念され、借入の平準化を図るとともに、公共施設整備基金等の財源確保に努める。  
 有形固定資産減価償却率については、令和1年度から2年度にかけ行った防災行政無線、庁舎非常用電源設備や各学校空調の更新更新工事の減価償却がかいしされたため、昨年度より1.5ポイント上昇し、類似団体よりも高い水準となった。

(参考)

	H29	H30	R01	R02	R03	
当該団体値	将来負担比率	49.4	50.9	61.0	50.5	34.4
	有形固定資産減価償却率	57.4	59.1	59.1	60.3	61.8
類似団体内平均値	将来負担比率	20.2	18.2	20.3	15.5	4.6
	有形固定資産減価償却率	57.5	59.3	60.3	61.5	61.0

## 将来負担比率及び実質公債費比率の組合せによる分析



**分析欄**  
 将来負担比率は、ふるさと応援基金等の充当可能財源の増加と標準財政規模の増により改善傾向にあり、実質公債費率についても、公営企業債等繰出金の減と標準財政規模の増加により改善傾向にある。しかしながら、類似団体と比較した場合、将来負担比率、実質公債費率がともに高く、今後も大規模事業の償還開始や今後も小中学校の長寿命化の更新工事等大規模工事が控えており、元利償還金額は増加していく傾向にある。

(参考)

	H29	H30	R01	R02	R03	
当該団体値	将来負担比率	49.4	50.9	61.0	50.5	34.4
	実質公債費比率	7.6	7.5	7.3	7.2	7.0
類似団体内平均値	将来負担比率	20.2	18.2	20.3	15.5	4.6
	実質公債費比率	6.8	6.8	6.6	6.4	6.3

# (13)-1市町村施設類型別ストック情報分析表①

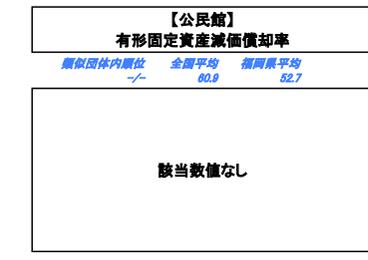
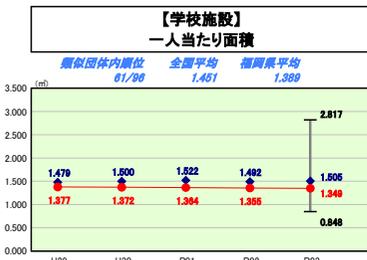
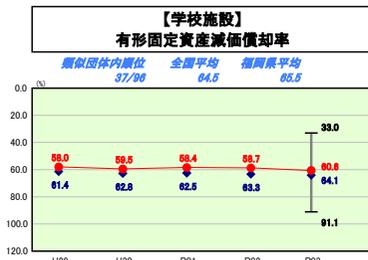
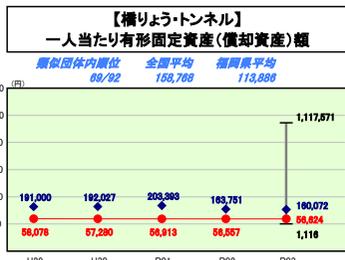
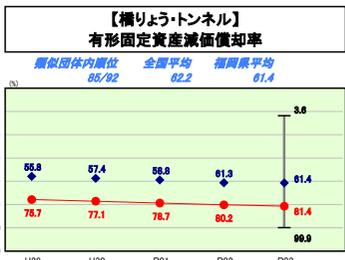
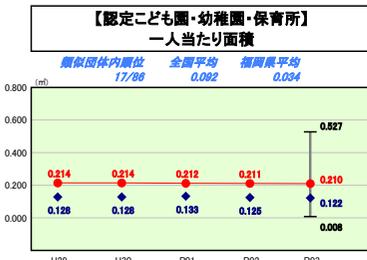
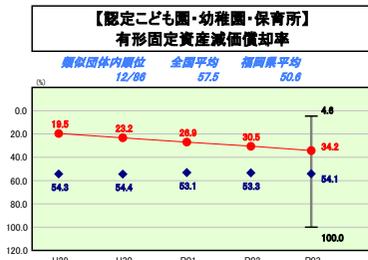
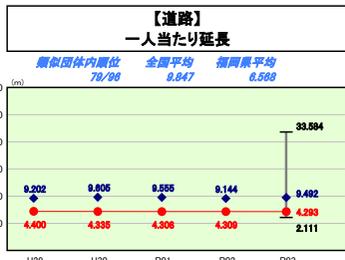
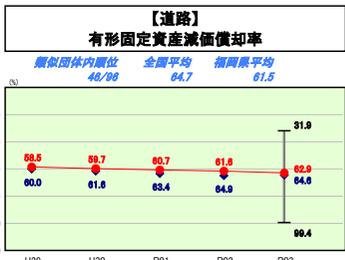
令和3年度

福岡県須恵町

人口	29,045	人(94.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	28,753	人(94.1.1現在)	道新実質赤字比率	-	%
世帯数	16,311	世帯	実質公債費比率	7.0	%
歳入総額	11,884,801	千円	将来負担比率	34.4	%
歳出総額	11,480,015	千円	市町村別型	H29 V-2 H30 V-2 R01 V-2	
実質収支	382,100	千円	(年度毎)	R02 V-2 R03 V-2	
標準財政規模	6,364,765	千円			
地方債現在高	7,381,919	千円			



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。  
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口に基づいている。  
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和3年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。  
 ※ 類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答があった団体に関するもの。



**高級情報の分析値**

【道路】は、一人当たり延長が全国平均、県平均、類似団体平均と比較してもかなり低い数値となっているが、毎年段階的・計画的に改修・補修工事は実施しており、維持費や更新費用は他団体よりも抑制できていると考えられる。  
 【橋りょう・トンネル】は、比較的年数の経った施設が多く、減価償却率は高くなっているが、策定した長寿命化計画に沿って計画的に更新・改修工事を進めている。  
 【認定こども園・幼稚園・保育所】は、近年、町内の5園中4園の施設を更新しており、減価償却率はかなり低い水準となっているが、年々一定の割合で減価償却率は上がっている。今後、公立幼稚園の更新(幼児園化)を予定しており、待機児童解消のため、施設を更新を進めている。  
 【学校施設】は、各段階的に耐震補強工事・大規模改修工事を実施しているため、類似団体と比較し、減価償却率は低くなっている。今後は策定した個別施設計画をもとに小中学校の長寿命化を進め、管理コストの縮小と平準化を進めている。

# (13)-2市町村施設類型別ストック情報分析表②

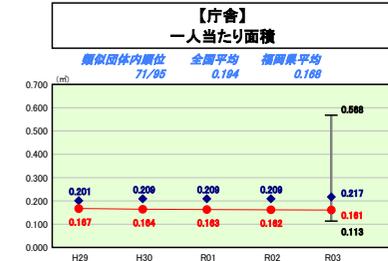
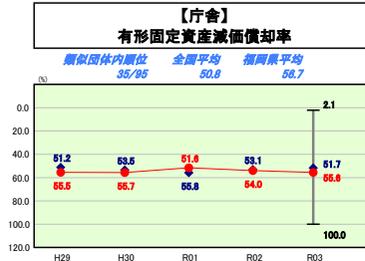
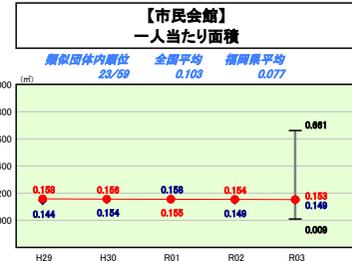
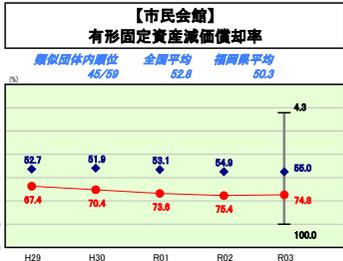
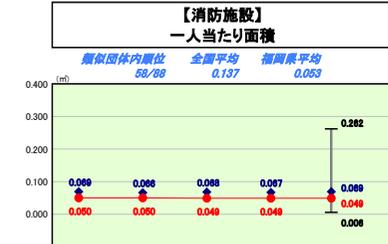
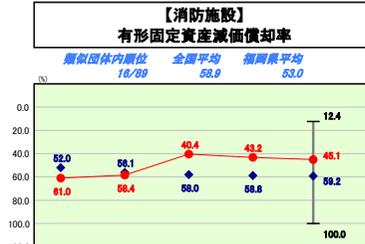
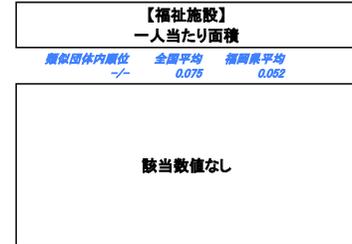
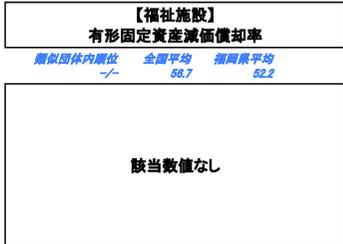
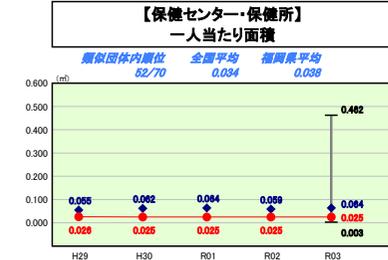
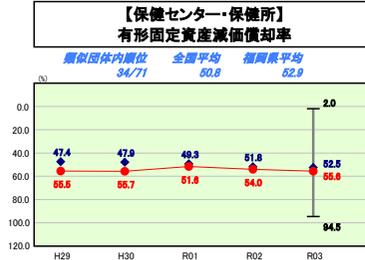
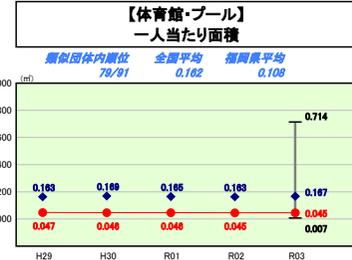
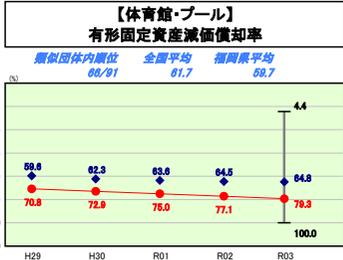
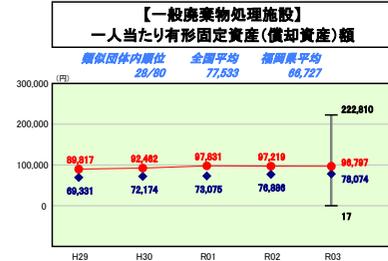
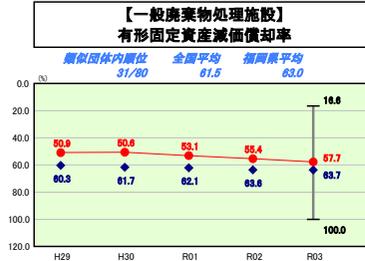
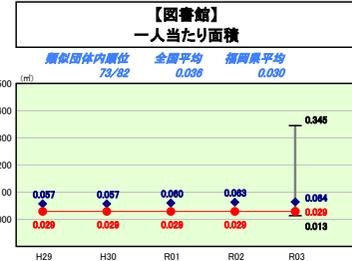
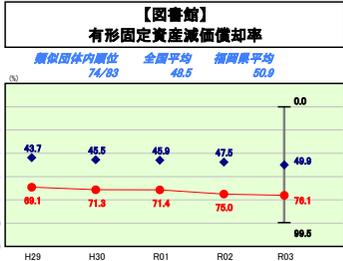
令和3年度

福岡県須恵町

人口	29,045人 (R4.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	28,753人 (R4.1.1現在)	道新実赤字比率	-%
面積	16.31km <sup>2</sup>	実質公債費比率	7.0%
歳入総額	11,884,801千円	将来負担比率	34.4%
歳出総額	11,480,015千円	市町村別型	H29 V-2 H30 V-2 R01 V-2
実質収支	382,100千円	(年度毎)	R02 V-2 R03 V-2
標準財政規模	6,364,765千円		
地方債現在高	7,381,919千円		



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。  
 ※ 人口については、各調査対象年度の1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口に基づいている。  
 ※ 類似団体内順位、全国平均、各都道府県平均は、令和3年度決算の状況である。また類似団体が存在しない場合、類似団体内順位を表示しない。  
 ※ 類似団体関連の数値は、各年度の調査で回答があった団体に関するもの。



#### 施設情報の分析

【図書館】は、建設から40年以上が経過しておりかなり老朽化が進んでいる。近年中に改修か更新等の判断をしなければならぬ状況にあり、現在、個別施設計画を策定し、移転・増設等も選択肢とした新たな方策を検討している。

【体育館・プール】は、2施設ありうち1施設は建設されてから40年以上が経過しており、上記図書館と同様の判断をしなければならぬ状況と考え、プールは、該当施設無し。

【市民会館】は、建設からおよそ25年が経過し大規模改修を実施すべき時期がきている。外観のひび割れや舞台照明設備等の老朽化も進んでいるため、策定した個別施設計画をもとに長寿命化と設備の更新に着手している。

【一般廃棄物処理施設】は、近隣団体で負担し合い維持管理をしており、施設は15年以上経過している。類似団体に比べ減価償却率は低くなっているが、施設更新に向けて設計等の準備を進めている状況である。

【保健センター】は、当町では庁舎と併設している施設であり、建設から30年経過し大規模改修の時期となっている。令和3年に事務所の改修を行い、若干ではあるが類似団体との差は埋まっている。

【消防施設】は、防災無線施設のデジタル化による更新を経たことにより、類似団体に比べ減価償却率は低くなっている。